

令和 7 年度

## 第5次総合振興計画事務事業評価シート(様式1)

提出日					R7.6.23				
担当					にぎわい創出課				
グループ名					地域振興グループ				
記入者名									
1 事業概要									
(1)事業名	小川町和紙体験学習センター管理運営事業費				(2)事業種別 (新規・継続)	継続	(3)事業性格 (政策・一般)	政策事業	
(4)第5次総合振興計画での位置づけ					(5)予算・財源等の別				
(1)基本目標 活力ある産業のまち(産業の振興)					(1)会計区分 一般会計				
(2)大項目 工 業					(2)財源区分 町単独				
(3)中項目 伝統産業の振興					(3)予算科目 款 7 項 1 目 2				
(4)施策					(4)予算事業名 小川町和紙体験学習センター管理運営事業費				
(5)施策コード 6.3.3.0 掲載ページ 103 ページ					(7)総合戦略				
(6)実施根拠					(1)総合戦略 (該当事業名) 無				
(1)事務分類(自治・法定受託) 自治事務					終了 未定 年 月まで				
(2)根拠法令・条例等									
(3)事業期間 開始 平成11 年 4 月から									
2 事業の目的・内容等									
(1)目的(何のために行うか)					(2)内容(どのような取り組みか)				
当町の伝統産業である手漉き和紙の体験及び学習の機会を設け、技術伝承と普及宣伝を図るため。また、和紙製造に携わる職人等の施設利用により、地域経済の振興及び向上を図るため。					設立当初の姿を残す和紙体験学習センター(旧埼玉県製紙工業試験場)を保存活用し、和紙の体験学習や解説・展示を行う。また、職人等に対し和紙製造に必要な設備の利用に供する。				
(3)対象(誰に対して、何に対して行うか)					(4)成果イメージ(どのような状態になることを目指すか)				
町内外の一般・観光客 町内の職人					ユネスコ無形文化遺産登録された細川紙を継承する和紙のふるさと小川町として、全国・世界に誇る和紙の拠点施設としてアピールできる。また、和紙の学習、研修、製造に供することにより、後継者育成や産業振興につながる。				
対象数	センター利用者数	単位	人						
(5)事業を取り巻く環境(社会環境や町民ニーズ等)									
もとは和紙製造事業者や研究者を対象とした専門的な施設であったが、現在は小川町和紙体験学習センターとして地権を使った専門的な体験研修を行う施設として認知され、当施設の利用をあえて希望する声が聞こえるようになった。また、戦前に建築された貴重な施設としての文化財的価値も注目されている。									
(6)SDGsへの貢献									
<div>4 質の高い教育をみんなに</div> <div>8 働きがいも経済成長も</div> <div>12 つくる責任つかう責任</div>									
3 事業のコスト(実績・決算・予算) (単位:千円)									
(1)事業(内容)名称		小川町和紙体験学習センター管理運営事業費							
項目	決算・予算年度	R3年度決算	R4年度決算	R5年度決算	実施年度(R6年度)決算	今年度(R7年度)当初予算			
(2)事業費内訳	報酬・勤勉手当等(会計年度任用職員)	3,202	1,720	2,188	1,136	6,440			
	報償費	244	0	0	8	96			
	需用費	1,938	2,220	2,351	2,032	2,230			
	役務費	321	326	321	325	408			
	委託料	55	205	55	55	62			
	その他	1,129	601	610	301	659			
	直接事業費合計	6,889	5,072	5,525	3,857	9,895			
(3)財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0			
	県支出金	0	0	0	0	0			
	地方債	0	0	0	0	0			
	その他特定財源	1,236	1,649	2,470	1,916	1,200			
	一般財源	5,653	3,423	3,055	1,941	8,695			
合計	6,889	5,072	5,525	3,857	9,895				
(4)補助金名									
(5)人件費									
投入職員数		0.8	0.8	0.8	0.8	0.8			
年間人件費		6,102	6,034	6,017	6,218	6,426			
(6)総事業費		12,991	11,106	11,542	10,075	16,321			
サービス量(人)		2290	2580	3890	3380	2500			
サービス単価		5.7	4.3	3.0	3.0	6.5			
(単位)		千円/利用者1人当たり							

4 指標の検証				小川町和紙体験学習センター管理運営事業費		
指標名			単位	R5年度決算	実施年度(R6年度)決算	今年度(R7年度)予算積算
(1) 活動指標(実施した事業の量)						
指標名	小川町和紙体験学習センター利用者数	目標値	人	2500	2500	2500
		実績値	人	3890	3380	
		達成率	%	155.6	135.2	
	手漉き和紙体験者数	目標値	人	1000	1000	
		実績値	人	1880	1560	
		達成率	%	188.0	156.0	
(2) 成果指標(実施した結果として得られた成果の量と達成度)						
指標名	工業事業所数(総振目標指数P103) R7年度目標値 90件	目標値	件	90	90	90
		実績値	件	85	85	
		達成率	%	94.4	94.4	
	入込観光客数(総目標指標p106) R7年度目標値 780千人/年	目標値	千人	780	780	780
		実績値	千人	694	587	
		達成率	%	89.0	75.3	
(3) その他指標に現れない成果						
道の駅おがわまちリニューアル工事中のため、小川町和紙体験学習センターの利用者及び体験者数が大幅に増加した。						
5 事業評価						
(1) 項目別評価						
評価項目		評価		評価理由	評価した理由を選択してください。	
必要性	事業の必要性	1	1 必要性は高い 2 どちらともいえない 3 必要性が低い	2	1 事業の実施が関係法令等で定められている	
					2 住民や団体など外部から要望・要請が多い事業である	
					3 その他( )	
妥当性	実施主体の妥当性	1	1 妥当である 2 どちらともいえない 3 妥当性が低い	2	1 事業の主体が関係法令等で定められている	
					2 民間では事業を行っておらず、行政が主体となるべき事業である	
					3 その他( )	
	手段の妥当性	1	1 妥当である 2 どちらともいえない 3 妥当性が低い	2	1 事業を行うのに民間活力(企業、NPO、ボランティアなど)を活用している	
					2 他に有効な代替手段が見当たらない	
					3 その他( )	
効率性	コスト効率性 人員の効率性	1	1 効率的である 2 どちらともいえない 3 効率性が低い	2	1 サービス単価は減少している	
					2 サービス単価を維持している	
					3 その他( )	
公平性	受益者の偏り	1	1 偏りはない 2 どちらともいえない 3 偏りがある	2	1 公平に分配されている	
					2 おおむね公平に分配されている	
					3 その他( )	
有効性	成果の向上	1	1 成果が上がっている 2 どちらともいえない 3 成果が下がっている	3	1 成果指標は、目標値より実績値が上回っている	
					2 成果指標は、前年度より向上している	
					3 その他(町全体の観光入込客数は成果値を下回ったが、施設の体験者数は大きく上回った。)	
進捗度	事業の進捗	1	1 順調に進んでいる 2 概ね順調である 3 あまり順調に進んでいない	2	1 年度内に予定した事業は完了した	
					2 年度内に予定した事業の8割以上は完了した	
					3 その他( )	
(2) 総合評価(上記結果を踏まえて、今後の課題と対応を記載してください。)						
道の駅おがわまちがリニューアル工事中のため、本施設の利用者が増加した。町内等において和紙を生業として営んでいる職人や研修生の作業場(工房)としても重要な施設であるが、建物・設備の老朽化が著しい。戦前の製紙工業試験場の建物が群として現存しているのは全国唯一であり、その保存活用が課題である。また、令和元年8月に策定された「和紙の有効活用による町の活性化計画」に則り、和紙産業の技術や用具が継承され、後継者育成ができる施設としての再整備を早急に検討し、決定する必要がある。						
6 事業の方向性の判断				1 拡充 2 現状維持 3 縮小・統廃合		
評価主体	評価	評価についての説明				
(1) 一次評価 (担当課長)						
(2) 二次評価 (政策推進課長)						
(3) 最終評価 (町長)	2 現状維持	伝統産業である和紙産業の振興を図るため、施設の在り方を継続して検討する。				